

# 2008年度傷害報告 集計結果

(財)東京都スキ一連盟  
教育本部安全対策委員会

# 2008年度傷害事故集計表

提出317件 受講者数 7827名 受傷者数 32名 受傷率 0.41%

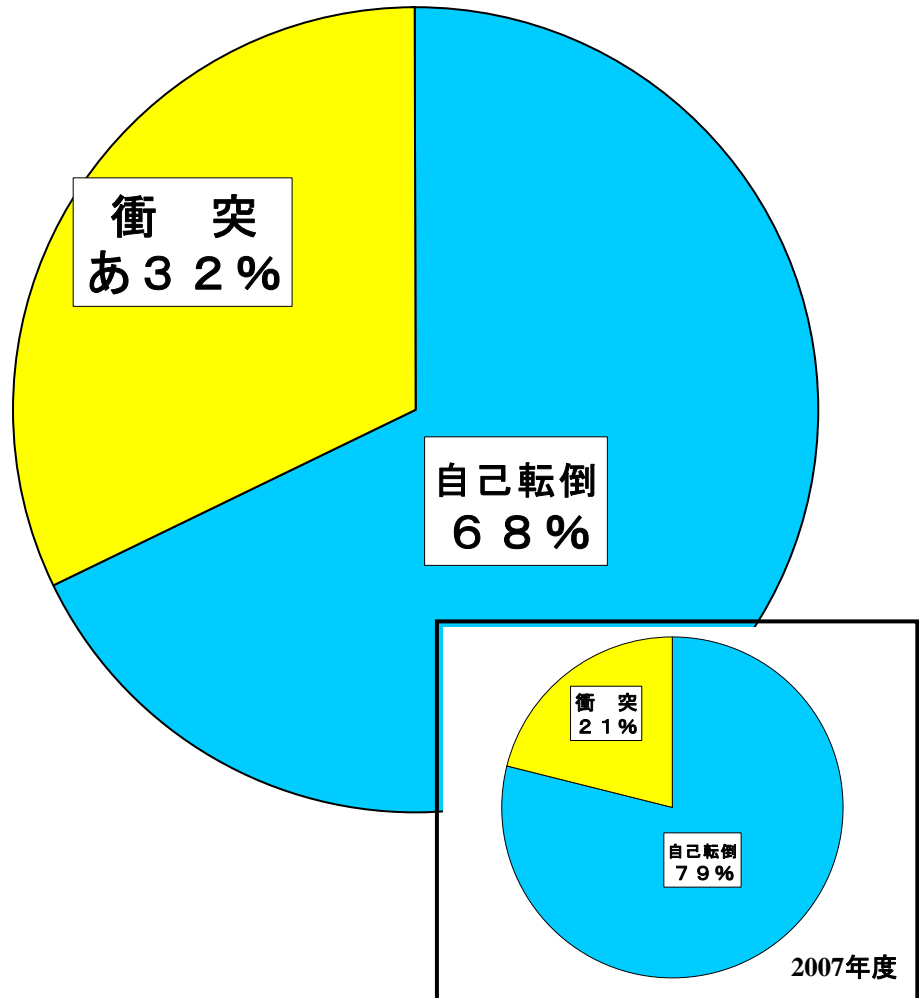
設問	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	合計			
傷害保険	01	自己傷害保険	5	02	対人賠償 対物賠償	1	03	対人対物賠償	6		自己+対人 自己+対物	3	1	9	30	
性別	04	男性	19	05	女性	15									34	
年齢	06	6歳未満	0	07	7-12	5	08	13-15	0	09	16-20	1	10	21-25	0	
	11	26-30	3	12	31-40	10	13	41-50	3	14	51-60	4	15	61歳以上	8	34
技術レベル	16	指導者	4	17	上級者	13	18	中級者	13	19	初級者	2	20	初心者	2	34
体格	21	大きい	7	22	普通	18	23	小さい	7						32	
滑走日数	24	0-3	12	25	4-6	9	26	7-10	4	27	11-15	2	28	16-20	2	
	29	21-30	1	30	31日以上	1									31	
休養	31	充分	27	32	不充分	5									32	
準備体操	33	充分	33	34	不充分	1									34	
傷害名	35	捻挫	8	36	骨折	7	37	脱臼	2	38	切創	3	39	打撲	11	
	40	靭帯損傷	5	41	擦過傷・刺創	3									39	
傷害場所	42	前頭部	2	43	後頭部	0	44	顔面	2	45	頸部	0	46	肩部	6	
	47	上腕部	0	48	前腕部	1	49	手指部	2	50	胸部	3	51	背部	0	
	52	腹部	1	53	腰部	1	54	大腿部	2	55	膝部	10	56	下腿部	3	
	57	足首	4	58	その他	2									39	
全治日数	59	7日未満	7	60	8-14	6	61	15-21	3	62	22-30	4	63	31-60	5	
	64	61-90	0	65	91以上	2	66	未受診	4						31	
発生状況	67	講習中	22	68	自由時間	9	69	練習中	2	70	競技中	0			33	
発生時刻	71	9時まで	1	72	12時まで	18	73	15時まで	10	74	17時まで	4	75	ナイター	0	
	76	その他	0												33	
雪質	77	粉雪	4	78	湿雪	5	79	新雪	0	80	深雪	2	81	ザラメ	2	
	82	アイスバーン	6	83	踏み固めた雪	9	84	溶けかけた雪	2	85	その他	1			31	
斜面の傾斜	86	緩斜面	8	87	中斜面	15	88	急斜面	7						30	
斜面の状況	89	スムーズ	18	90	キックアップ・こぶ	5	91	ラフ	6	92	深雪	3			32	
ゲレンデ状況	93	混雑	2	94	普通	11	95	すいていた	17						30	
ゲレンデ整備	96	良い	12	97	普通	11	98	悪い	6						29	
原因	99	自己転倒	21	100	衝突	10									31	
自己転倒	101	回転失敗	14	102	人・物の回避	3	103	スタート・オーバー	4	104	技術不足	1			22	
衝突	105	自分から	2	106	衝突された	8									10	
衝突相手	107	人	9	108	物(人以外)	2									11	
相手の状況	109	講習中	3	110	自由時間	3	111	練習中	1	112	競技中	0			7	
ヒンディンク	113	はずれた	18	114	はずれない	12									30	
調節方法	115	知っていた	26	116	知らない	4									30	
調整者	117	自分で	12	118	販売店	14	119	指導員	0	120	パトロール	0	121	知人・友人	0	
	122	その他・不明	4												30	
開放強度	123	強すぎ	1	124	適切	28	125	弱すぎ	0						29	

# 受傷原因

衝突事故  
減少傾向から増化  
自己転倒優位が続く

↑  
講習中の統計

無理のない技術指導を

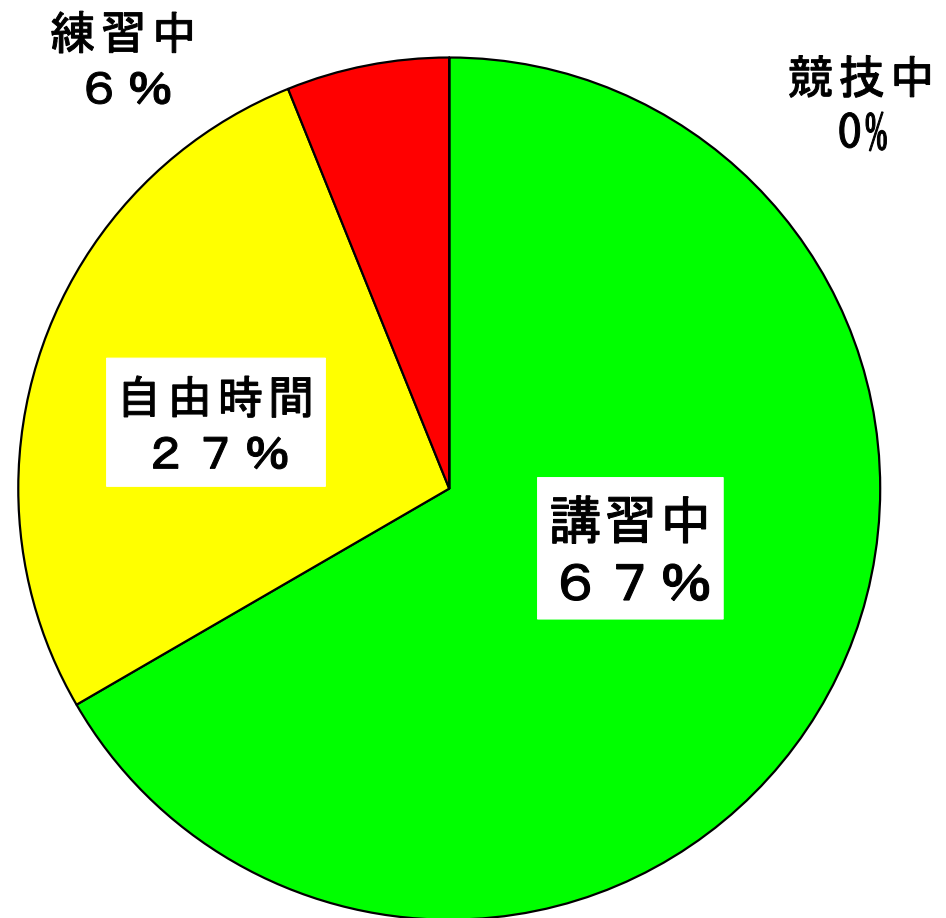


# 傷害発生時の状況

- ・講習中の事故が圧倒的に多い
- ・自由時間や練習中にも事故に遭遇



- ・生徒の安全確保を
- ・単独でも事故を防げる技術/安全指導も



# 衝突時の状況

## 講習中に衝突する

指導者のラインを滑ろうとする

課題に集中して滑る

慣れない課題をこなしきれない

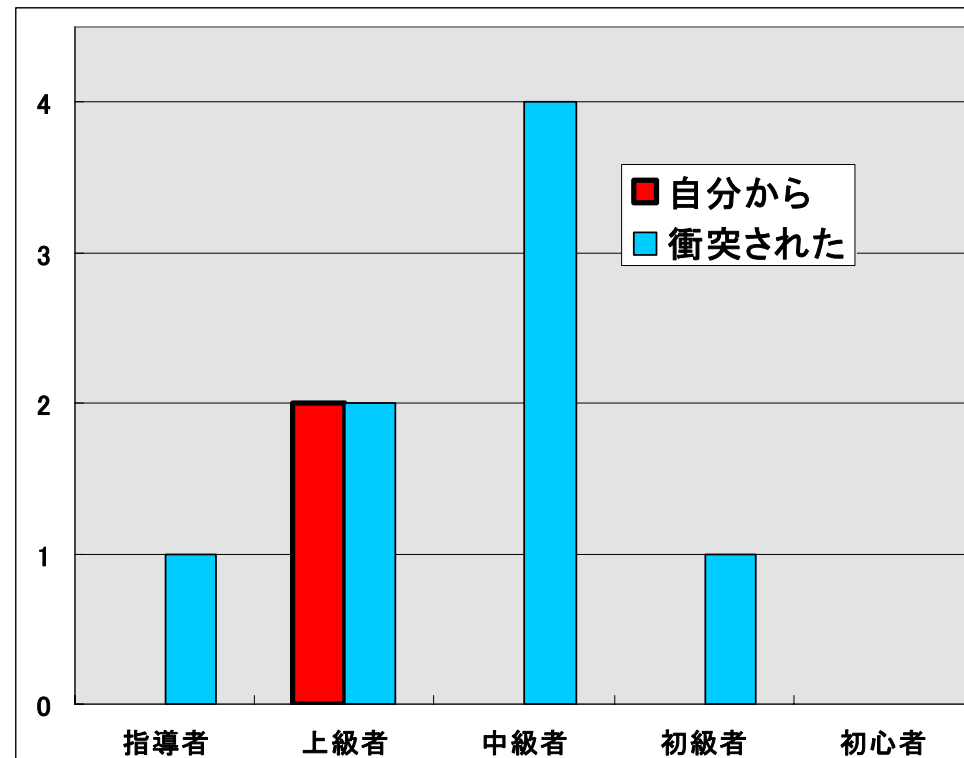
周囲への注意が疎かに

◎指導者の注意が重要

自由時間にも

周囲への注意不十分

◎指導を通じて注意喚起

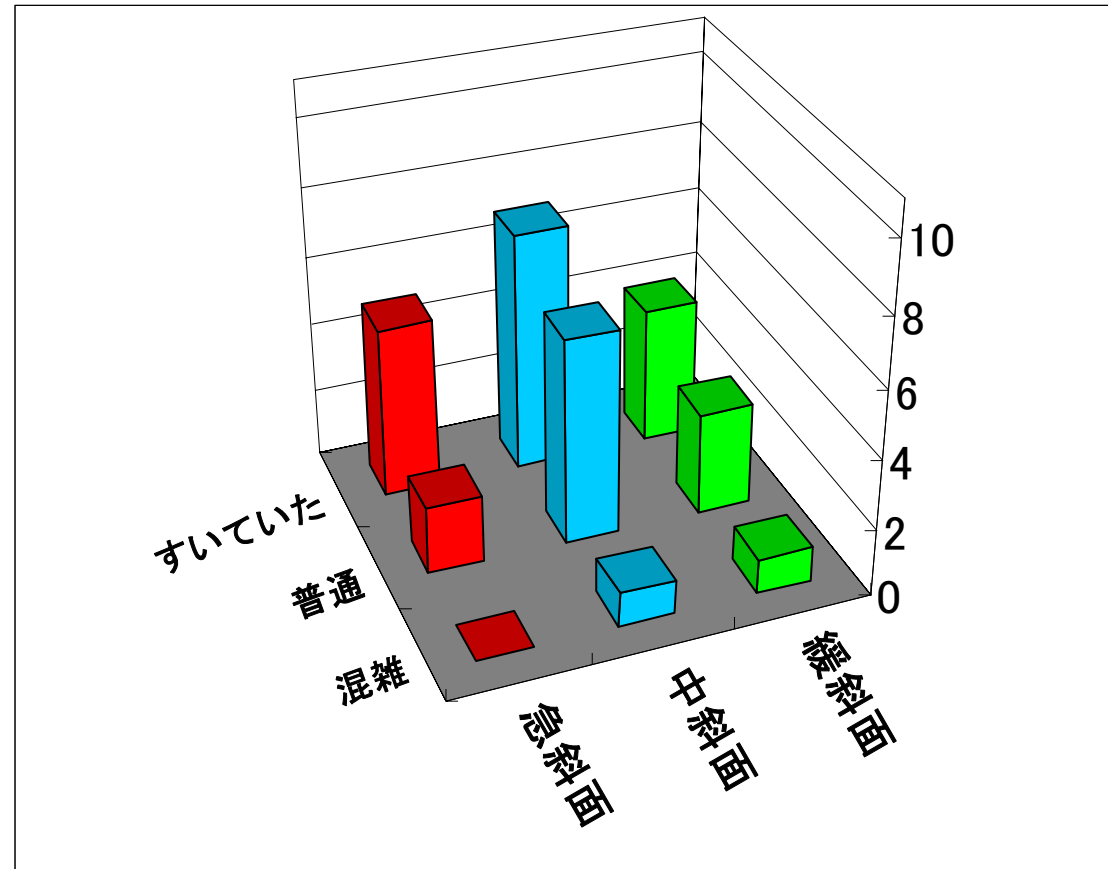


# 斜度、混雑状況と傷害度数

混雑していない  
緩・中斜面  
で事故が多い

正しい状況判断

- ・ 課題の与え方
- ・ スタート前の安全確認

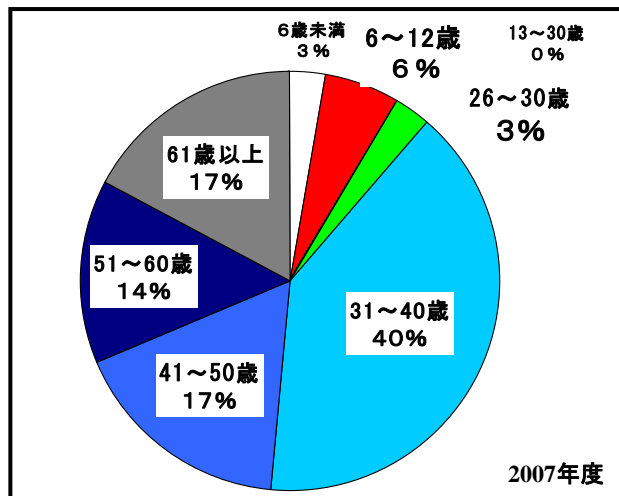
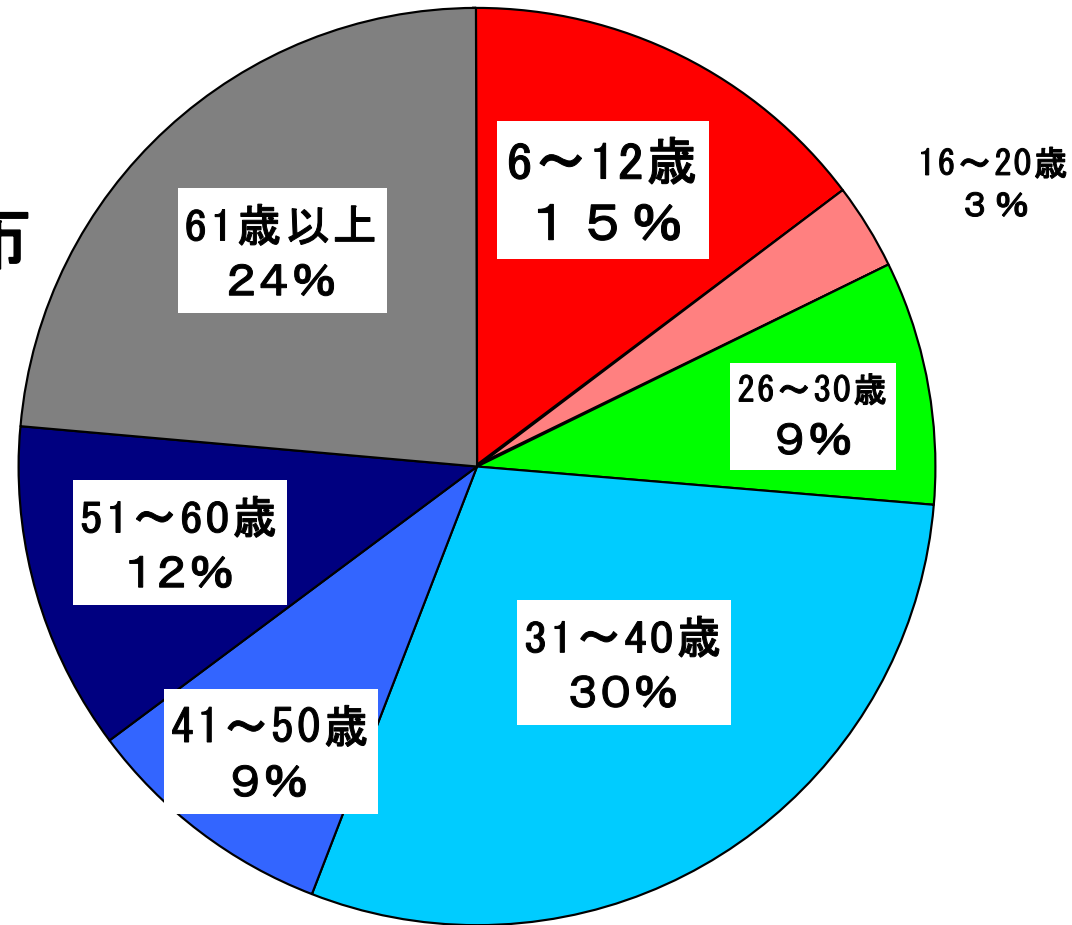




# 全受傷者に対する年齢層別比率

受講者の  
年齢分布を反映して  
30歳代から上に広く分布

30歳以下および  
61歳以上が増加

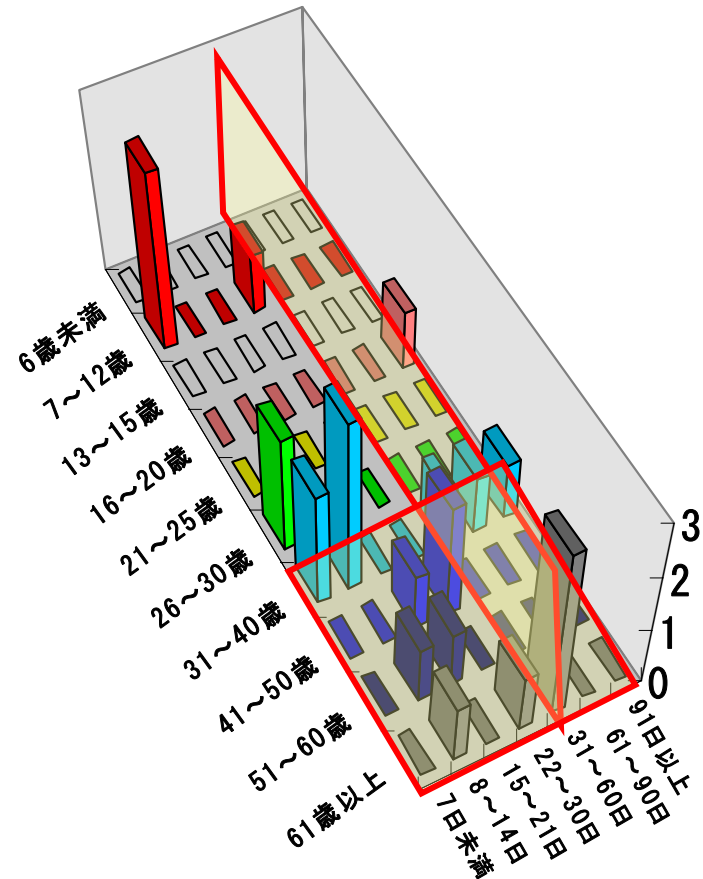




# 年齢と障害重度との関係

若年層に比較し  
中高年には重症もある

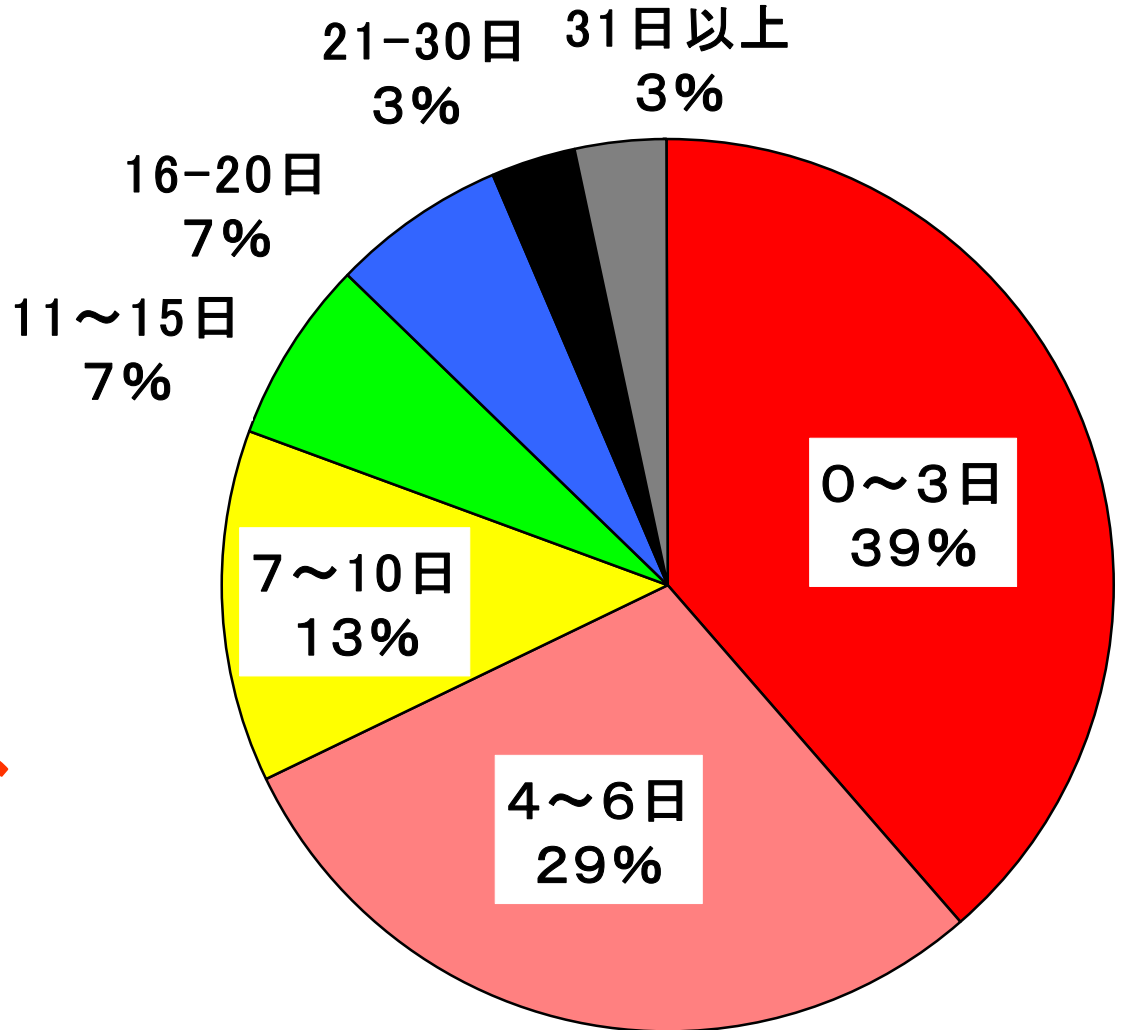
運動能力・体力  
自己の意識と  
実際との乖離



# 受傷までの滑走日数

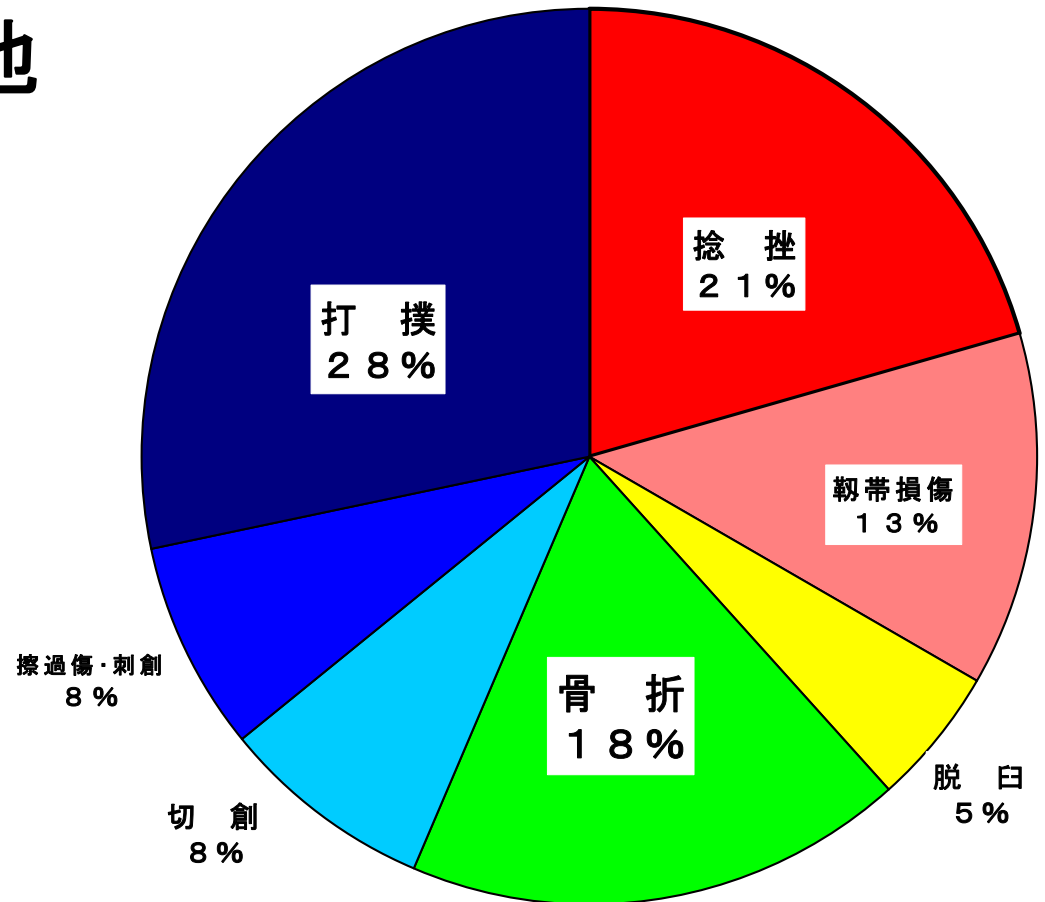
滑走日数が  
少ないうちほど、  
傷害事故が多い

思い出すまで  
無理をしない、  
させない



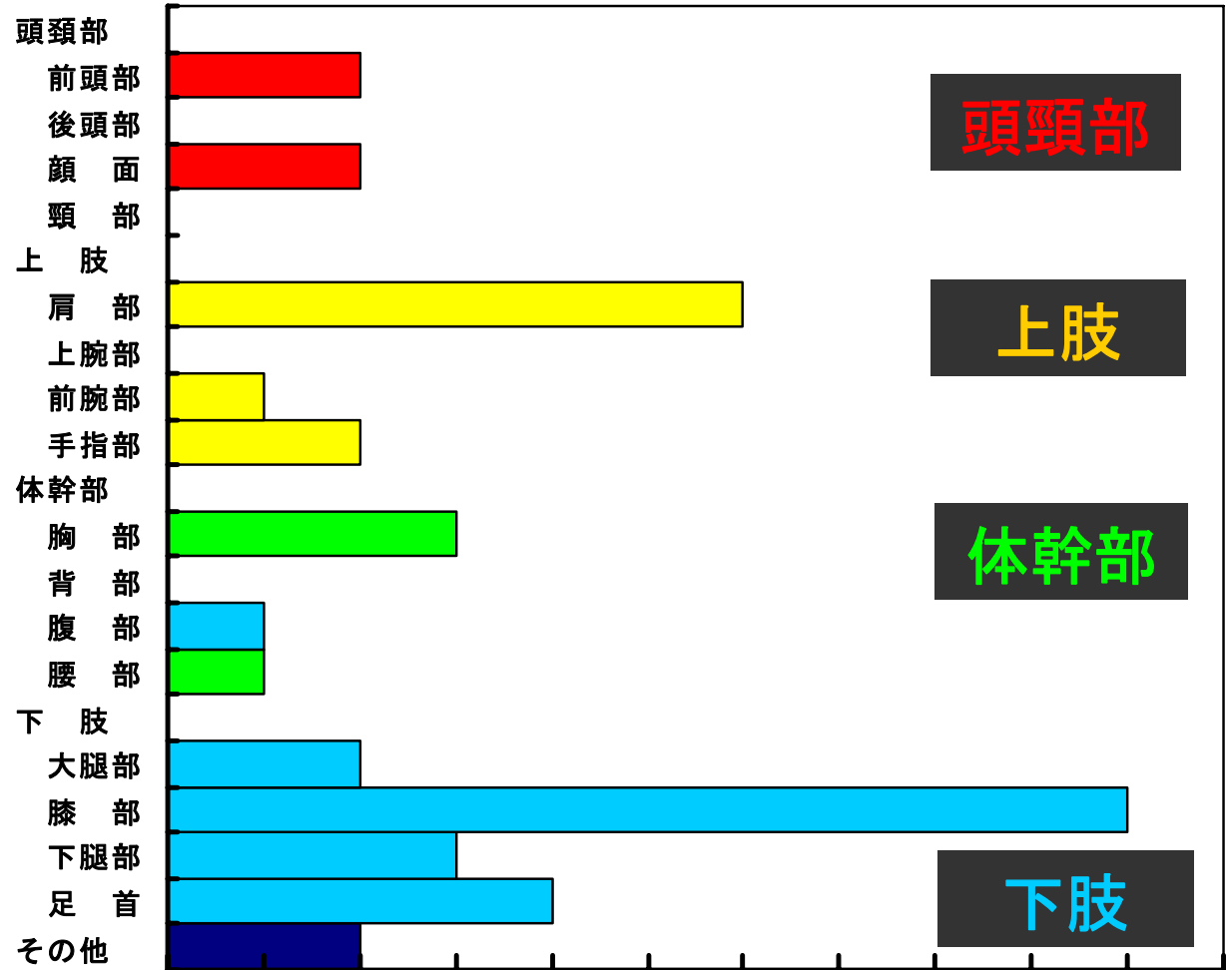
# 障害の種類

靱帯周囲の損傷の他  
**打撲**が増加傾向



# 受傷部位

膝の傷害が  
非常に多い

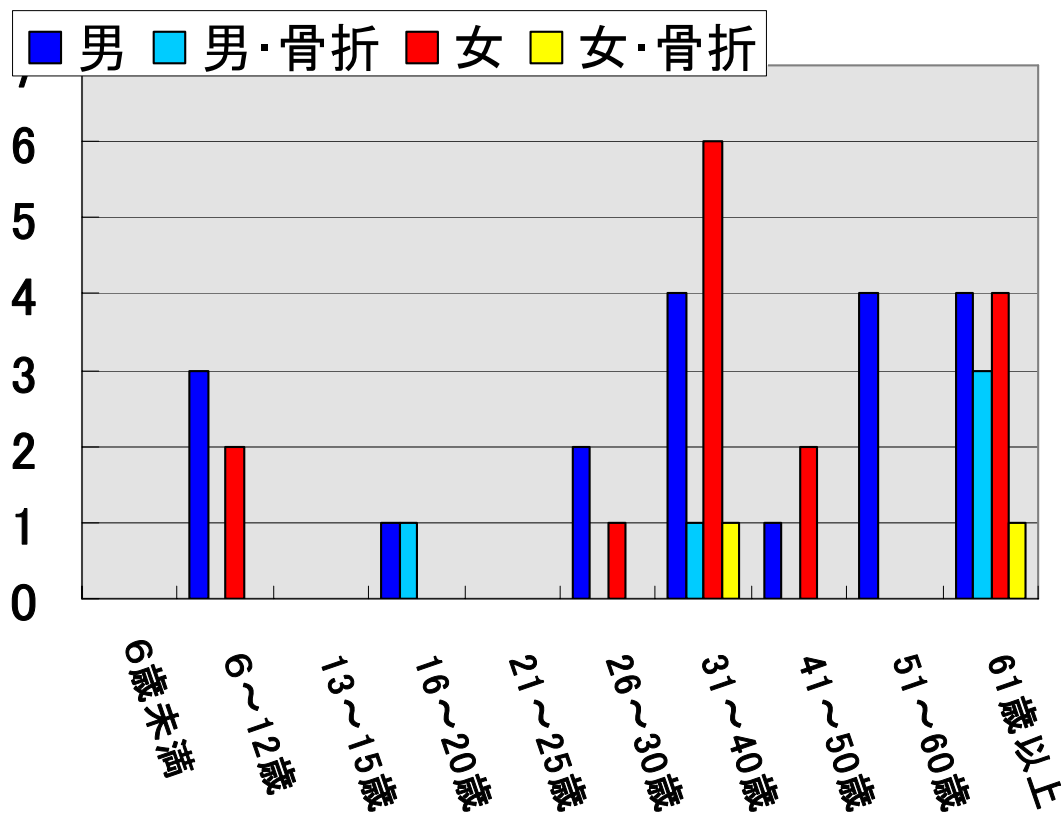




# 年齢別、性別の骨折の割合

傷害の性差が縮小

スピード制御技術が  
定着  
多様なスキー操作  
技術の習得過程で  
傷害防止が必要

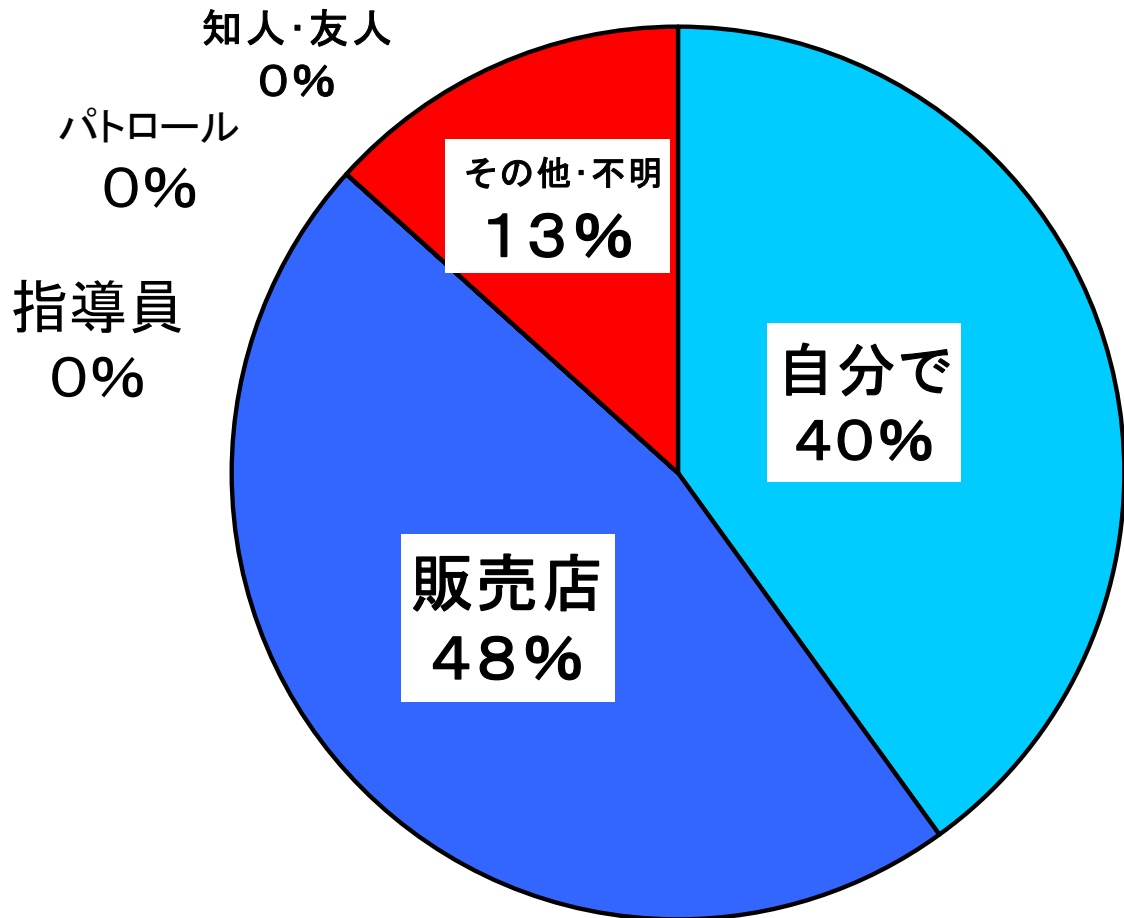


# ビンディングの強度

強度は概ね適切

自己責任が  
浸透してきた

PL法については  
引き続き注意喚起

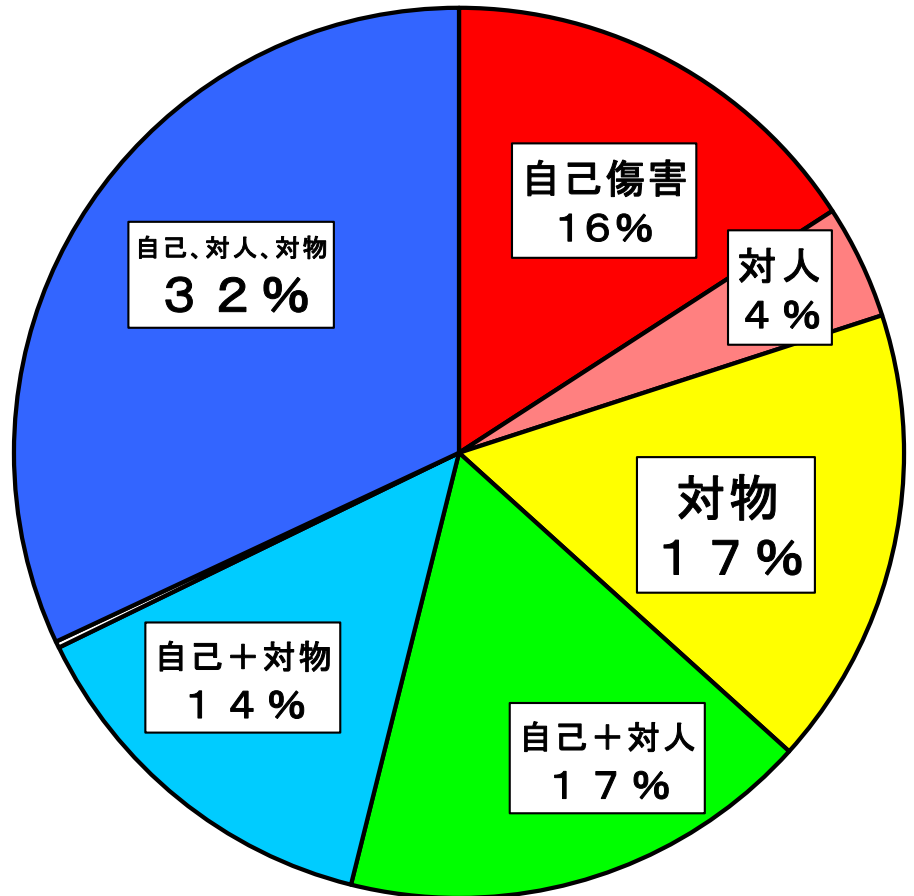


# 障害保険の種別

対物のみが減少  
自己傷害・対人・対物の  
3点セットが次第に増加

掛け金は高くない  
3点セットで!!

対人+対物  
0%





# スキー学校での配慮事項

- 受講生の状況把握の重要性
- 他の講習との位置関係に要配慮
- 混雑していない中斜面、緩斜面は要注意
- 用具の選択、調整の指導
- 適切な保険

# 指導者の配慮事項

- 指導者は帽子をかぶっていますか？
- 講習場所の安全に配慮していますか？
- ストックを振って合図していませんか？ 手引 p. 4
- 講習中、生徒の技術を超えた技術を使って滑っていませんか？
- 多人数を一列で滑らせていませんか？
- リフトのセーフティバーの正しい使い方を指導していますか？ 手引 p. 4
- 各指導者は事故に対処できますか？
- 事故時の連絡体制を確立してありますか？ 手引 p. 8-11

# 全国統一スキー場標識及び標示マーク等色刷一覧表

全国スキー安全対策協議会

<p><b>A 禁止標識</b> 危険な事態を避けることを目的とした標識で、ある特定の行為を禁止するもの。</p> <p>禁止の基本様式 中央に黒い図記号(又は字句)</p> <p>① 立入禁止</p> <p>② 歩行禁止</p> <p>③ スノーモビル等禁止</p> <p>④ スキー滑走禁止</p> <p>⑤ 講習禁止</p> <p>⑥ ボール禁止</p> <p>⑦ スノーボード禁止</p> <p>⑧ 飛び降り禁止 (⑧、⑨はリフト標識に使用される)</p> <p>⑨ 索器を揺らすな (⑧、⑨はリフト標識に使用される)</p>	<p><b>B 注意標識</b> 注意すべき状況を知らせる為の標識で、警戒して慎重な行動をとるよう求めるもの。</p> <p>注意の基本様式 中央に黒い図記号(又は字句)</p> <p>① 危険・注意せよ</p> <p>② 注意してユックリ行け</p> <p>③ 凸凹あり</p> <p>④ 整備車両に注意せよ</p> <p>⑤ ガケあり</p> <p>⑥ 右に(左に)合流する</p> <p>⑦ 分かれる</p> <p>⑧ じくざくコースとなる</p> <p>⑨ 左(右)急カーブとなる</p> <p>⑩ せまくなる</p> <p>⑪ 橋あり</p> <p>⑫ 急斜面となる (斜度数字の有無は選択とする)</p> <p>⑬ 林間の下りとなる</p> <p>⑭ 降りる準備をせよ</p> <p>⑮ 降りたら直進せよ(A)</p> <p>⑯ 降りたら直進せよ(B) (⑮、⑯、⑰はリフト標識に使用される)</p>	<p><b>D 注意旗</b> 避けるべき危険の有ることをポール・張繩等に標示し、接近や進入等を禁止するもの。</p>
<p><b>E 救護関係の標示マーク</b></p> <p>救護施設・救急連絡所・バトロール待所等に使用し、施設や係員の明示を図るもの。但し、案内図等で単色標示する場合は、外形を円か四角かで区別する。</p> <p>① バトロールバトロール連絡所</p> <p>② 救急診療所</p>		
<p><b>F コースの難かしさを表わす色と形</b></p> <p>指導標や案内図に用い、コースを選ぶときにヒントを与えることでスキーヤーの安全を図るもの。通常、色と形を併用した標示を基本とする。但し、状況に応じて色のみを用いて表す方法と、形のみを用いて表す方法と、その何れの使用も許される。</p> <p>① 上級コース</p> <p>② 中級コース</p> <p>③ 初級コース</p>		
<p><b>C 指示標識</b> 安全の確保を目的に秩序の維持を図る標識で、ある特定の行為の許容やそのルート・区域等の指定を示すもの。</p> <p>指示の基本様式 中央に白い図記号(又は字句)</p> <p>① 講習よし講習指定区域</p> <p>② ボールよしボール指定区域</p> <p>③ 歩行よし歩行者指定通路</p> <p>④ スノーボードよしスノーボード指定区域</p>		

1. 理解しやすくするために、標識に簡潔な字句を加えることが許される。その際、標識の板面内に記入する方法と、補助板に記入して貼る方法とがある。  
2. 状況により、標識の板面中央に記載する図記号を、簡潔な字句に代えることが許される。

# 報告書：特に重要な記入箇所

安 - 3

財団法人 東京都スキー連盟会長 殿

## スキー傷害事故報告書

別紙記入要領を参照のうえ、必要事項を記入し **スキー学校報告書と共に必ず提出**

また、事故発生時は、自傷者1名につき1枚提出してください。

この報告書は、傷害防止対策の資料とします。他の目的には使用しません。

スキー学校認定番号

検定共催番号

団体番号

団体名：

\_\_\_\_\_

実施期間：20 年 月 日（ 曜日）～20 年 月 日（ 曜日）

実施場所：

道・県 /

スキー場

講習総人数：  名

講習班数： \_\_\_\_\_ 班 / 1班平均： \_\_\_\_\_ 名

安全対策担当者氏名：

Q1

傷害事故発生

有

無

→ ご協力ありがとうございました。

傷害事故発生日： \_\_\_\_\_ 年 月 日（ 曜日） / 天候： \_\_\_\_\_

# 報告書：特に重要な記入箇所

傷害事故発生日： 年 月 日（ 曜日） / 天候：

Q2		Q3		Q4		Q5		
Q6		Q7		Q8				
Q9							41→	Q10
Q11							44,58→	Q12
Q13								

●●●●●●●●  
死亡

Q14		Q15		76→	Q16			
		Q17		85→	Q18			
Q19		Q20		Q21		Q22		
Q23		99→	Q24		Q26			
		100→	Q25		Q27			
				106→	Q27			
Q28		Q29		Q30		122→	Q31	
Q30		Q31					Q32	

Q33								
Q35								
Q36								

ご協力ありがとうございました。